学校番号	1009

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ａ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校 新地理Ａ（帝国書院）						
副教材等	地歴高等地図（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界の国について、様々な自然環境や社会環境下で暮らす人々の生活を中心に学習します。

２　学習の到達目標

・さまざまな環境の下で暮らすさまざまな人々の生活や文化を学習することを通じて、人間の多様性を理解させ正しい国際感覚を養わせる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め，それを意識的に追究するとともに，国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし，地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに，国際社会の変化を踏まえて公正に判断し，考察の過程や判断した結果を適切に表現する。	地図や統計，画像など地域に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択，活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート グループワーク	定期考査 ワークシート グループワーク	定期考査 ワークシート グループワーク	定期考査 ワークシート グループワーク
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	世界の諸地域の姿と地球的課題	１章　地球儀や地図からとらえる現代世界 １節　地球上の位置と国家 ①地上の現象と地球上の位置 ②経度の違いと時差 ③球面と平面の世界 ④国家の領域と国境 ⑤日本の領域と領土問題 ２節　グローバル化が進む世界 ①結びつきを強める現代世界 ②世界を結ぶ交通 ③世界を一つに結ぶ通信 ④拡大する世界の貿易 ⑤観光の国際化と人々の移動	○

		２章　人間生活を取り巻く環境 １節　生活に影響を与える環境条件とは ２節　人々の生活と地形 ①さまざまに変化する大地と生活 ②世界の大地形と人々の生活 ③山地・平野の地形と人々の生活 ④海岸の地形と人々の生活 ⑤氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活 ⑥世界の民族・宗教と生活・文化 ⑦生活・文化を支える産業の地域性 ３節　人々の生活と気候 ①生活と気候のかかわり ②熱帯の気候と人々の生活 ③乾燥帯の気候と人々の生活 ④温帯の気候と人々の生活 ⑤亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 ４節　人々の生活と産業 ①生活を支える世界の農業 ②生活を支える世界の工業 ５節　人々の生活と文化 ①生活と宗教・言語のかかわり ②生活・文化のグローバル化	○ ○ ○

		３章　世界の諸地域の生活・文化 １節　中国の生活・文化 ①中国の自然環境 ②中国の歴史と社会 ③１３億人の食を支える農業と農民 ④急進する工業と資源・環境 ⑤生活の変化と格差の拡大 ２節　韓国の生活・文化 ①朝鮮半島の自然環境 ②韓国の歴史と日本との交流 ③産業の発展と生活の変化 ３節　東南アジアの生活・文化 ①東南アジアの自然環境 ②東南アジアの歴史と民族 ③東南アジアの農業とその変化 ④工業の発展とＡＳＥＡＮ ４節　インドの生活・文化 ①インドとその周辺の自然環境 ②インド世界の歩みとヒンドゥー教 ③インドの産業の発展 ５節　中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 ①中央アジア・西アジア・北アフリカの自然環境 ②地域の歴史とムスリムの生活 ③豊かな石油資源と人々の生活 ６節　サハラ以南のアフリカの生活・文化 ①サハラ以南のアフリカの自然環境 ②サハラ以南のアフリカの歴史と文化 ③変わるサハラ	○ ○ ○ ○ ○ ○

後期		７節　ヨーロッパの生活・文化 ①ヨーロッパの自然環境 ②ヨーロッパの歩みと文化 ③ヨーロッパの産業	○	○		○	abd:ヨーロッパの中の自然環境の違いやたどってきた歴史の違い，すなわち地域性を学び，一体化の進むヨーロッパ社会の現状を，ＥＵの結びつきの過程などから理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		④ヨーロッパの統合 ⑤統合による影響と課題 ８節　ロシアの生活・文化 ①ロシアとその周辺の自然環境	○	○		○	abd:ロシアとその周辺諸国について，ソ連時代からＣＩＳにいたるプロセスやソ連解体後のロシア人の生活･文化と産業などの変化を学習する。	
		②ロシアの歴史と社会の変化 ③ロシアの産業と日本との結びつき ９節　アメリカ合衆国の生活・文化	○	○		○	abd:移民の国アメリカ・カナダに注目し，アメリカの移民社会と現在の多文化社会の特徴が，産業･大衆文化の形成にどのような影響を与えてきたかを理解するとともに，アグリビジネスやＩＣＴ産業に代表されるアメリカの先進性について，理解を深める。	
		①アメリカ合衆国とその周辺の自然環境 ②移民の歴史と多文化社会 ③大規模な農業とアグリビジネス	○	○		○	abd:先住民や移民，混血など多様な人種・民族からなる中央・南アメリカの社会について，先住民独特の生活･文化や混血の国ブラジルと日系移民の歴史・生活，白人国家アルゼンチンなどを具体例に，その地域の課題も含めて理解する。	
		④先端技術産業の発展と工業の変化 １０節　ラテンアメリカの生活・文化 ①ラテンアメリカの自然環境 ②混血社会と多様な文化 ③ラテンアメリカの産業とその変化	○	○		○	abd:太平洋諸島も含むオセアニアについて，その位置関係，自然環境，民族移動の歴史を学び，多文化社会のオーストラリア･ニュージーランドを中心に，他地域と結びつきを強めているオセアニアについて考察する。	
		１１節　オーストラリアの生活・文化 ①オーストラリアとその周辺の自然環境 ②オーストラリアの結びつきの変化 ③自然を生かした産業						

		４章　地球的課題を私たち １節　複雑にからみ合う地球的課題 ①地球的課題の特性とその解決 ２節　世界の環境問題 ①さまざまな環境問題 ②熱帯林の破壊とその解決 ③地球温暖化の現状と対策 ３節　世界の資源・エネルギー問題 ①限りある資源・エネルギー ４節　世界の人口問題 ①人口増加と少子化・高齢化 ②地域で異なる人口問題 ５節　世界の食料問題 ①飢餓と飽食 ６節　世界の都市・居住問題 ①都市への人口集中と諸問題 ②地域で異なる都市・居住問題		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○

	身近な地域の課題	１章　身近にあるさまざまな地図 ①身近な地図とその特色 ②ＧＩＳのしくみと支える技術	○	○	○		abc:観光地図や所要時間マップ，鳥瞰図など，教科書に掲載されている地図を，関心をもって参照し，また身近にあるさまざまな地図を収集して，地図を読むことの楽しさを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		③ＧＩＳ技術の活用と地図 ④目的に合わせた地図の作成	○	○	○		abc:観光地図とインターネット上の地図を比較して，描かれていることと描かれていないことがあることを理解する。	
		２章　日本の自然環境と防災 ①日本の自然環境 ②火山災害と防災 ③地震被害と防災 ④風水害と防災 ⑤身近な地域の防災を考える		○		○	bd:地理の言語としての地図，作成者の意図により取捨選択されている地図について，現在は住民参加の地図や触地図，バリアフリーマップなどさまざまな種類の地図が発行されていることから，目的に応じた地図選択の重要性を理解する。	
		３章　身近な地域の課題と地域調査		○		○	bd:地形図の特徴について理解する。	
		①地域を調べる課題の設定 ②課題の調査 ③調査内容の発表		○		○	bd:地形図を読む際の決まりごとを知識として身につけ，新旧地形図の比較から地域の変化を読み取ることを学習する。	
			○	○	○	○	abcd:地形図学習のまとめとして，身近な地域の地形図を入手し，読図した結果を現地に赴いて確認し，地形図活用の有効性ついて理解を深める。	
					○	○	cd:教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し，自然災害が多発する日本列島に，豊かな文化が築かれた背景を考察する。	
			○	○	○		abc:生活に影響を与えている気候，局地的な気候について理解し，気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について，インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し，グループで話し合う。	
				○		○	bd:生活に影響を与えている地形の特徴について理解するとともに，地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し，江戸時代以降，地形を改変して生活環境を変化させてきた人々の暮らしがどのようなものになっているか考察する。	
			○	○		○	abd:自然災害の多い日本列島で，人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について，自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに，先人の知恵が詰まった，災害に備え，災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。	
			○	○	○		abc:自然災害に備えるためには，ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに，災害に強い地形や環境について理解し，災	

							害に見舞われた際になるべく被害を減らせる(減災)できるよう，地域防災力を高めるために個々人ができることを積極的に話し合う。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
			○	○	○		abc:自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり，市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして，最も起こりやすいと想定されている災害は何か，また避難時に障害となるところはどこか，など，地域とそこに住む住民とともに減災に向けて意欲的に取り組む。	
				○		○	bd:作業を通して日本の気候と農業，気候と河川の関係性について学習する。また，ハザードマップを読み解き，災害時の行動をシミュレーションするＤＩＧに取り組む作業を通して，日ごろから備えることの重要性を理解する。	
			○	○		○	abd:地域調査について，積極的な調査を実施できるよう，地域調査の必要性を理解し,地域調査の基本を身につける。	
			○	○	○	○	abcd:地域調査の一環として，資料収集・現地調査を行い，的確な統計地図やグラフを作成して報告書をまとめ，発表する。	
			○	○		○	abd:地域調査を通して，河川は災害だけでなく豊かな生活にも恵みを与えていることに気づき，古くから人々は水の恵みを得るための工夫をこらし，災害をいなしながら生活してきたことを理解する。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。